

研究タイトル: わが国戦後の地方都市における市街地の形成過程に関する研究



氏名: 荒木 菜見子 / ARAKI Namiko E-mail: n-araki@yonago-k.ac.jp

職名: 助教 学位: 博士(学術)

所属学会・協会: 日本建築学会, 都市史学会, 日本都市計画学会

キーワード: 戦後都市史, 地方都市, 市街地形成

技術相談
提供可能技術:

- ・わが国戦後の都市形成に関する研究
- ・地方都市における市街地形成に関する研究
- ・近代建築の保存活用

研究内容 わが国戦後の地方都市における市街地の形成過程に関する研究

わが国戦後において、地方都市の都市空間がどのような過程で形成されていったかについて、歴史的な研究を行っています。特に、これまでに、戦後復興期に発生した闇市に関して、岐阜市の岐阜駅前を対象に研究を行ってきました。

闇市研究はこれまで、東京・神戸などの大都市圏を中心に研究が進められてきました。闇市は、物価統制に外れた物品売買が行われていた、土地を不法占拠していた等、色々な要素により定義づけられますが、いずれにせよ、なにかしらの非合法的な要素を含んだ市場空間というものでした。こうした市場空間は、敗戦で混乱に陥った日本においては、大都市圏に限らず地方都市においても存在したはずであり、その実態を明らかにすることが求められています。

これまでに行ってきた戦後復興期の岐阜の研究で明らかとなったのは、空襲を受け焦土となった岐阜駅前においては、北満州からの引揚者集団が組織化し、市場と住宅地区の建設・運営を行っていたということです。そこでは北満州からの引揚者集団の自律的な活動が見られ、それは非合法的な要素を含んだものではあったものの、岐阜市などによる公的な都市建設と互いに影響し合いながら、都市空間を形成していく過程が認められました。そしてそれは現在も岐阜駅前に展開する繊維問屋街(既製服の卸問屋街)の成立の起源となり、その後の岐阜の都市空間の形成に大きく影響していきました。

戦後復興期の都市におけるさまざまな動きは、現在われわれが目前にしている都市空間の形成に直接的に影響している場合が多く、その史的検証を行うことは、そのまま今後の都市空間の在り方を考えることに繋がると考えています。すなわち、歴史を過去の一事象として捉えるのではなく、現在・未来への連続性の中でどのように位置づけるのかということが大切なのであり、そうした目線をもって戦後都市史の研究に取り組んでいきたいと考えています。



左) 東海夕刊 1947.10.14 記事

右) 北満州の引揚者集団により建設された住宅地区の遺構 (2015年現在)

担当科目 建築史Ⅰ, 建築史Ⅱ, 地域居住空間計画, 保存再生論, 設計製図Ⅳ, 工学基礎実験Ⅰ

過去の実績

近年の業績

(研究・教育論文、特許含む)

- ・荒木菜見子, 中川理: わが国戦後復興期における岐阜駅前の商業及び住宅地区の形成過程に関する歴史的研究, 日本建築学会計画系論文集第 776 号, pp.2257-2266, 2020.10
- ・荒木菜見子, 中川理: 岐阜駅前繊維問屋街における街区建設の経緯に関する研究, 日本建築学会計画系論文集第 780 号, pp.675-685, 2021.2